

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第1回 行田市水道事業運営審議会
開催日時	令和6年10月15日(火) 開会：午後2時 ・ 閉会：午後3時30分
開催場所	行田市水道庁舎 2階 第3会議室
出席委員氏名	吉田豊彦委員 齊藤博美委員 田尻要委員 木暮昭彦委員 代田義治委員 高鳥和子委員 石郷岡ヨシエ委員 持田恵美子委員 青木敦子委員 白鳥拓治委員 計10名
欠席委員氏名	0名
事務局	高橋都市整備部長 根岸上下水道経営課長 横田主幹 田辺主査 内山水道課長 田島主幹 岡村主査 坂本主査
会議内容	(1) 令和5年度行田市水道事業会計決算について(報告) (2) 令和6年度行田市水道事業会計予算について(報告) (3) 令和6年度水道事業の概要等について(報告) (4) 行田市水道事業経営戦略について
会議資料	(資料名) ① 次第 ② 資料1 令和5年度行田市水道事業会計決算について ③ 資料2 令和6年度行田市水道事業会計予算について ④ 資料3 令和6年度水道事業の概要等について ⑤ 資料4 行田市水道事業経営戦略 ⑥ 行田市水道事業運営審議会委員名簿 ⑦ 行田市水道事業運営審議会条例 ⑧ 令和5年度行田市水道事業会計決算書及び決算附属書類 ⑨ 令和6年度行田市水道事業会計予算書及び予算説明書
その他必要事項	傍聴者 0名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	1 開 会 資料確認 委員出席状況報告 2 あいさつ 都市整備部長あいさつ 3 委嘱状交付 都市整備部長から各委員へ委嘱状を交付 4 会長、副会長選出 委員の互選により、吉田委員が会長、田尻委員が副会長に選出 5 報告及び説明
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・（１）の「令和５年度行田市水道事業会計決算について」、（２）の「令和６年度行田市水道事業会計予算について」、（３）の「令和６年度水道事業の概要等について」を一括して説明し、その後に質問等を受けるとし、事務局に説明を求める。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・（１）「令和５年度行田市水道事業会計決算について」資料１を用いて説明する。次に、（２）「令和６年度行田市水道事業会計予算について」資料２を用いて説明する。続けて、（３）「令和６年度水道事業の概要等について」資料３を用いて説明する。
議長 斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明について質問等はあるか。 ・行田市の普及率は県平均より低い状況である。そこで令和５年度の普及率が減少している要因として、給水区域内人口の減少という説明があった。今までは微増であったが、減少となった理由を教えてほしい。また、有収率が減少している理由について、漏水の増加、管路の洗浄、火災での使用等があるとの事であるが、今まで有効な漏水対策が出来ていなかったのか、この２点について教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・普及率は市内人口に対する給水人口の割合で、その給水人口の算出方法については、給水戸数に一世帯当たりの平均人数を掛けて算出している。そのため、昨年度における市内の一世帯当たりの人数が減少したことに連動し、給水人口が減少したものである。 ・漏水対策については、現在、老朽化した管や漏水が多い管の布設替え工事を実施している。また、漏水が確認された場合には修繕を実施している。漏水調査については近年の実績はないが、現在、今主流となっている AI を活用した漏水調査を委託している。
斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水した水量は料金に反映されないため、無駄になってしまう。その漏水調査については、令和６年度の事業となるのでは。漏水対策は今までも行っていると思うが、令和５年度では何を実施したのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、漏水の可能性が高い管路の布設替えを実施した。また、漏水が発生した場合、早急に修繕が完了するようにした。 ・他の自治体と比較すると、行田市だけは有収率が減少している。他の自治体はほとんど変わっていない。そこで、令和6年度は漏水調査を行うとの事であるが、更なる改善が必要であるため、重点的に行ってほしい。 ・予算書にある収益的収入の給水収益と、決算書にある収益的収入の給水収益を比べると大きな差がある。おそらく、水道料金の無料化の影響と思われるが、それで良いのか。無料化分の記載がないと分かりにくい。 ・決算書の給水収益が少ないのは、ご指摘のあったとおり、水道料金の無料化分が計上されていないため少なくなっている。またその他に、決算書は営業成績を比較しやすいように消費税抜きで表示しているが、予算については、税込で支出するため、消費税込みで表示している。記載方法については、見やすくなるように検討する。 ・有収水量が減少し、管路延長が増加すると、流速が落ちて管内の水質悪化が懸念される。そうすると、末端で管内の水を排出する必要があるが、状況はどうか。その作業を行うと有収率が減少するが、しないと最近、東京都でもあったが、水道水の滞留により、水質が悪化し、においが発生し問題となる事が起こり得る。 また、AIを利用した漏水調査を実施することであるが、予算書ではどこに記載があるか。また、その調査は配水管が対象か、若しくは配水管からメーターまでの給水管かどうか。給水管の漏水が増加していると思われるが、その評価はどうしているか。 ・今年の夏、塩素濃度が低くなる配水管があったため、末端部分で管洗浄を行った。その他、定期的に管洗浄を実施している箇所があるので、支障がないよう対応している。 次に、漏水調査の委託費については、配水及び給水費の17節の委託費、予算書では29、30ページとなる。漏水調査は、配水管と給水管の両方を調査する予定である。 ・調査委託料の約1,500万円であるか。その場合、具体的な調査方法はどのようなものか。例えば衛星を利用するなど。 ・今回の調査は、配水管を対象として、管路の情報を入力するものであり、その情報をAIが判断する。例えば、情報として、管種や布設年度のほか、地盤状況や交通量などを入力し、漏水が発生する可能性が高い箇所を特定するものである。 ・今回の調査は、初めてAIを活用することの事で、漏水箇所を特定できるのか。 ・AIを活用した調査では、漏水箇所をエリアで特定し、その後、音
斉藤委員	
白鳥委員	
事務局	
木暮委員	
事務局	
木暮委員	
事務局	
斉藤委員	
事務局	

木暮委員	<ul style="list-style-type: none"> による詳細な調査を行う。 ・補足すると、AIに様々な条件を入力することで、ある一定の区域に漏水が多いのではという情報が出てくる。その後、音聴棒という聴診器のような道具で漏水箇所を特定するものである。今までの調査では、広範囲の区域を対象とし、音聴棒を利用して漏水箇所を探していたが、効率的に実施するため、ある程度の地域を絞って調査するものである。
斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の資料に、令和5年度の主な事業の予定としての記載があったが、今回の資料1の令和5年度の主な事業の中に、昨年度に記載した事業内容についての記載がなかったため確認したい。まず、令和5年度から6年度にかけて経営戦略を改定すると記載があるが、令和5年度では、経営戦略に係る事業は実施したか。あと、アセットマネジメントの策定を進めているとの記載があるが、令和5年度は実施したのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略とアセットマネジメントは関連する内容であり、令和5年度半ば頃から経営戦略の改定に向けて、委託ではなく、職員が直営で行っている。主な内容については、長期的な更新計画や財政計画のシミュレーション等である。今回、事業費が掛からなかったこともあり、令和5年度の実績に記載が洩れてしまった。今回、この後、経営戦略の素案を説明するが、令和5年度から6年度にかけて経営戦略とアセットマネジメントを進めている。
斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予定で記載していることについては、次の実績に記載するべきであると思う。今まで、経営戦略は業者に委託していたところ、今回は職員が実施したとの事であるが、それにより経費が削減できたと思う。水道事業の計画であるため、職員が行うことがベストであり、それを実施した事を評価したい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)の「行田市水道事業経営戦略について」を説明し、その後に質問等を受ける。事務局に説明を求める。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)「行田市水道事業経営戦略について」資料4を用いて説明する。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明について質問等はあるか。
斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略では令和10年度に料金改定を見込んでいる。また、県水受水単価は令和8年に改定を予定しているが、行田市は県水の割合が44パーセントであり、県内でも低い方である。県水100パーセントの事業体もあり、その場合料金改定の影響を受けるものと考えられる。行田市のシミュレーションには、県水受水単価の改定の影響を見込んでいるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度からの県水受水単価の改定を見込んだ財政計画を作成している。
斉藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・水道料金の値上げは、市民への影響が大きい。今後、下水道使用

<p>木暮委員</p>	<p>料の値上げが決定されている。命の水であるので、料金改定については、よく検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料4-1の10ページで、重要給水施設配水管路の耐震化率の記載があるが、避難所や病院等に接続する管路だと思うが、整備が残っている管路の延長は何キロメートルくらいあるか。 <p>次に、13ページで、民間の資金・ノウハウ等の活用（ウォーターPPP等の導入）についての記載があるが、現在どの程度進捗しているか。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 需要給水施設配水管路の耐震化については、市内の病院2箇所までの管路を指定している。1つは、ここ西部配水場から壮行会行田病院までの管路で、整備済である。もう1つは、向町浄水場から行田中央病院までの管路であり、現在未整備である。一箇所が完了し、一箇所が未整備のため、耐震化率50パーセントとしている。整備が残っている管路延長は、2、3キロメートルである。 令和4年度に包括的業務委託を実施し、その中で上下水道を一括して委託等を発注できないか検討した。そこで、様々な業者にアンケート調査をしたところ、水道管、下水道管の維持管理を委託に含めた場合、業者の協力を得る事が難しいという結果になった。管路の維持管理業務を含めず委託することも考えていたが、国の進めるウォーターPPPでは、上下水道一体で、原則、管路の維持管理と改築を含める事が示された。そのため、水道を含めたウォーターPPPについては、現状難しいため、今後見直し、近隣の市等の動向を踏まえて検討していく。
<p>木暮委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上下水道の一体型のウォーターPPPについては、施設管理や維持管理、料金徴収等を含めるので、様々な擦り合わせが難しく、なかなかハードルが高いと思う。業務一体化や先程のAIによる漏水調査などは、広域的に行うと効率的で、比較的費用も抑えられる。地域で協力していくことは重要である。
<p>白鳥委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県水を購入している行田市は、県水受水単価の改定により、ダイレクトに水道料金に反映されるのか、それともある程度、現行料金で吸収できるのか。 <p>1月に発生した能登半島地震で大きな被害があり、水道施設の復旧には、多くの期間を要している。水道は他のものと比べると飲み水として即必要となる。いつ発生するか分からない地震に対して、行田市としてどのような対策、また都市整備部としては、どのような対策を考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県水受水単価については令和8年に改定が予定されており、現状の見込みでは、令和9年度まで給水収益で吸収できる。令和10年度以降には、純利益がマイナスとなるため、料金改定のポイントになるのではと考えている。

・災害の備えについては、市では様々な分野あり、ライフラインのほか多くの公共施設等で、それぞれの施設管理者が対策を考えている。そこで水道に限って言えば、浄配水施設では、大きな地震が発生した場合、水道管から水が漏れないようにしないといけない。そのため、漏水となるような地震が発生した場合、配水池にある弁が締まり、タンク内に水を貯留する。それにより、通常一日に使用する水道水の半分くらいが確保される。断水となり水道は使用できなくなるが、応急給水として使用水量が制限されるため、一週間くらいの水道水を確保できるようにしている。

また配水管については、地震により管が抜ける可能性があり、そうすると断水になる。そうならないために、地震に強い配水管への更新工事を進めている状況である。その他の取組として、行田市水道が断水となった場合に備えて、近隣市とタイアップし、協定を結んで管を整備することで、例えば熊谷市から水道を供給してもらい、また行田市から送水する事などが出来るようにしたい。また、地震等の影響は広範囲に及ぶため、近隣自治体は同様の被害が想定される。そのため、行田市と活断層が全く違う自治体との連携も重要と考えている。行田市は能登半島地震による応急給水のため、輪島市に職員8人を派遣した。給水車と職員の安全ベストに行田市と記載があったため、行田市を覚えていた輪島市の方がいた。そのような取組みによる協定も考えていきたい。

・本日の報告はすべて終了したので、議長の職を解かせていただく。

6 閉会

議長